



ayur-chair

“座れない子”が増えている！？

「ちゃんと座りなさい!!」から「座れる環境づくり」へ
学校のイスが変わり始めた。



「座ってられない」「集中が続かない」――。

いま教育現場では、子どもたちの“座る力”の低下が課題視されている。

背景にあるのは、運動不足や筋力低下、長時間のタブレット使用などだ。

姿勢を保つ力が弱い子どもが増え、心身の不調や集中力低下との関連も指摘される。



ハイエンド学習イスが小学校の全教室に

「学校のイス」が、いま見直され始めている。今年4月、アーユル・チェアー ジャパン（本社：東京都渋谷区、代表取締役：長谷川康之）が展開する「アーユル・チェアー」が、都内の吉祥寺学園初等部で全学年の教室のイスとして採用された。発売20周年を迎えるロングセラー商品だが、今年は前年比約2倍の売上を記録し注目を集めているイスだ。一般的な学校椅子が1万円前後なのに対し、価格は約6万円。学校備品としては異例ともいえる高額導入だ。なぜ今、“座る環境”に注目が集まっているのか。

半世紀以上変わっていない子どもイス

実は、誰もが思い浮かべる木とパイプの「学校のイス」は、半世紀以上ほとんど変わっていない。大人向けには、枕やマットレス、コンフォートシューズ、リカバリーウェアなど“身体を整える市場”が急成長してきたが、成長期の子どもが1日6時間以上を過ごすイスは長年アップデートされてこなかった。その間、タブレット学習の普及、運動不足による筋力低下、中学受験などに伴う学習時間の増加、発達特性への理解の広がりなど、子どもたちを取り巻く状況は大きく変化した。



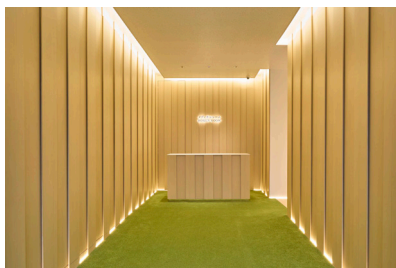
急成長する子どもイス市場

米FORTUNE誌によると、世界の子ども向け家具市場は2030年代までに約3倍規模へ拡大すると予測されている。日本でも学習イス市場は年7～8%前後で成長を続けており、注目市場となりつつある。少子化が進む一方で、子ども一人あたりにかける教育投資は増加傾向にある。「ちゃんと座りなさい！」と叱るのではなく、“集中しやすい環境を整える”という考え方へ。教育現場でも少しずつ価値観が変わり始め、アーユル・チェアーのような高機能・ハイエンド学習イスへの需要が高まり始めている。

特許取得の「坐骨」で座るイス

アーユル・チェアは、特許を取得した独自形状により、自然と「坐骨」2点で座る形となり、子どもでもラクに骨盤を立てた理想的な姿勢が身につく。

子ども向けの姿勢矯正チェアには北欧製など海外ブランドにも人気商品があるが、アーユル・チェアは農耕民族特有の骨格や筋肉のつき方など、日本人ならではの身体特性を研究し開発された点が特徴だ。姿勢がよくなることで呼吸が深くなって脳への酸素供給量が増え、集中力が高まることも第三者機関によって実証されている。



最先端の学習環境の一環として

吉祥寺学園は、世界的建築家の隈研吾氏による校舎設計など、先進的な教育環境を提供していることで注目されている。その中でアーユル・チェアは、大切な成長期における子どもの身体の負担軽減と、集中しやすい学習環境づくりに貢献できる点が評価された。

今回、子どもの集中力向上と安全性に配慮した「スタディ」モデル448脚が初等部全学年の教室に導入された。

日本の学校のイスを変えていく



アーユル・チェアは、発売から20年の間に慶應義塾高校や成蹊大学、早稲田アカデミーIBSなどの学校・塾に導入されてきたが、全教室への大規模な導入は今回が初となる。もともと子ども用からスタートし、ブランド設立当初から「日本人の姿勢を変えたい」「学校のイスを変えたい」というビジョンを掲げてきたアーユル・チェア。20周年を迎えたいま、ついに実を結んだ形だ。



慶應義塾高等学校



吉祥寺学園 初等部



成蹊大学



文教大学附属小学校



早稲田アカデミー IBS
Integrated Bilingual School



アーユル・チェア 体験型ショールーム (原宿直営店)

東京都渋谷区神宮前3-21-1 プラフロール神宮前2階

平日 10:00-18:00 土曜 10:00-19:00

アーユル・チェア 公式サイト

<http://www.ayur-chair.com>

